

鹿児島の動物⑬ エラブオオコウモリ (オオコウモリ科) 脊椎動物担当 中間 弘

エラブオオコウモリは、琉球列島に生息するクビワオオコウモリの一亜種で、口永良部島とトカラ列島の中之島、平島、悪石島に生息します。熱帯地域が主な生息地であるオオコウモリ科の中では、最も北に分布する種です。体長は19～25cm、翼を広げた大きさが90cmほどになりますが、体重は450～700gしかありません。

夜行性で、天気が良ければ特定の場所に集まる傾向があります。食性はフルーツ食で、アコウやガジュマル、イヌビワなどの果実を主に食べますが、果実の少ない時期にはマルバグミやキカラスウリの葉も食べます。また、秋には昆虫なども食べるようです。

日本に生息するクビワオオコウモリには、エラブオオコウモリの他に、ダイトウオオコウモリ(大東列島)、オリイオオコウモリ(沖

縄島)、ヤエヤマオオコウモリ(先島諸島)が知られており、エラブオオコウモリとダイトウオオコウモリは、国の天然記念物に指定されています。

エラブオオコウモリの生息地が小さな島に限られること、また森林の牧地化など開発に

よる採食樹やねぐらの減少などによって、好適な生息環境がなくなり、確実に生息数が減少しています。最も多く生息する口永良部島でも生息数は100頭以下と推測されています。放牧地の鉄条網や果樹の保護網に絡まって死亡する例もあることから、これらがエラブオオコウモリに危害を及ぼさないようにするなどの対策が急がれます。



鹿児島の植物⑮

秋のシソ科の植物

植物担当 大屋 哲

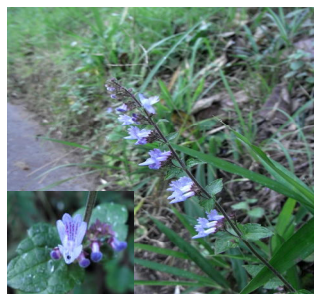
シソ科の植物は私たちの生活と関わりの多い植物です。梅干しの着色に使う赤ジソや刺身のつまに使う青ジソなど食用のもの、ヒキオコシなどの薬用のもの、さらには花壇によく植えられるサルビアなどの観賞用のものなどさまざまです。

秋のころは、道ばたなどでシソ科の植物をよく見かけます。主な特徴は、①茎の形が四角。②茎の節から二つの葉をだす(対生)ものが多い。③花は唇形。④葉などをもんでみると独特のおいがるものが多いことなどです。

10月上旬に、志布志市と錦江町で調査したときに見かけたよく似た2種のシソ科の植物を紹介します。

●ヤマハッカ

道路沿いなど明るい場所に生え、高さは20～60cmになります。山に生えるハッカから名前がついたと言われます。ハ



ッカとちがいあまりにおいしません。

花は紫色をしており、上の花びらに濃い紫色の細長い斑点がつけます。また、下の花びらが内側に巻き込んで、おしべやめしべは、かくれていることが多いです。

●ヒキオコシ

道路沿いや林の縁などに生え、高さは100cm以上になるものもあります。

花はうすい紫色をしています。上の花びらに斑点がつけますが、ヤマハッカと比べて下の花びらは巻き込まずおしべやめしべが見えています。

葉に苦みがあり、胃腸薬として使われ、重病人を病の床から「引き起こす」ことほど薬効があることからこの名がついたと言われます。別名延命草。

